高田光男 光画展 in 札幌

鎮魂譚 - tin-con-tan - @ fudge

2008年11月11日(火) ～ 2009年2月28日(土)

fudge(ファッジ) 札幌市中央区南 2 条西 5 丁目 興和産業ビル 3F
Tel & Fax. 011-210-5011
営業時間 18:30 ～ 23:30 (日祝日は休み)

高田光男 光画展 in 札幌

鎮魂譚 - tin-con-tan - @ fudge

■ 作者プロフィール ■

高田光男(たかたみつお) 1962年、兵庫県尼崎市生まれ。

会社員として安定収入を得ながら、隙間を利用して自らの創作活動の他、インデペンデントなアーティストのサポートを行い、なんでも便利屋としても活動。４年ほど前から世田谷区用賀にある元自転車屋だった店舗付住宅に居を構え、店舗スペースをギャラリーに改装。studio KJSとして自らの発表場所とするだけでなく、仲間のアーティストにアトリエやリハーサルスタジオやライブスペースや宴会場として利用してもらったりしている。

■ 作品解説 ■

神道用語的には、肉体から魂が離れつつあると病気になったりと身体が弱るとされ、、離れかけた魂を肉体にもどす儀式が鎮魂（たましずめ）と言われたそうである。すなわち魂を肉体に鎮めるということらしい。

15歳あたりから自分を表現する手段として写真を撮り始めたが、30年もやってると要領を覚えたり、《らしく》逃げたり、ついつい《真似》したりと、自分が本当に撮りたい（撮るべき）写真からどことなく離れていってる感じがしていた。んじゃ、もう何も気にすることなく、今やりたいことやっちまえってことで今回の写真ができあがった。今まで、天才アラーキー曰く「物を撮るか、事を撮るか」という狭間で迷っていたが、物を素材にまで単純化して、いわば光の抽象的なデザイン画っていうスタンス。

写真は多くの情報を伝えることが出来る。それをあえて単純化して光と影にのみ執着した。誰に何と言われようとこれが私の写真の核である。そして、そこに撮影者たる私の何が写り、そして見た人に何が伝わるのか？願わくば光と影が饒舌であることを…ってな気分。

ちなみに今回の写真はすべてPanasonic Lumixというコンパクトカメラにて撮影、それをインクジェットプリンターで専用紙でもなく、普通の和紙に出力。銀塩のギの字もなく、デジタルだし撮ったカメラもファインダーすらない。最近、台頭してきた「やっぱ銀塩だよねー、フィルムだよねー」とか能書きの写真原理主義的には認めがたいのかもしれないけど、そんなことしったこっちゃない。

以前、「黒の舟歌」というタイトルでシリーズ化した写真展やるために、いにしえの二眼レフカメラRolleiFlexで撮ってた時に気づいたことだが、あれってやっぱり覗くファインダーがない。上にあるスクリーンに映る絵を見て撮る。そうすると一直線に被写体と対峙してないからリアルな感じじゃなくなる。そこが面白かった。デジカメも裏の液晶モニタ見て撮る。やっぱりこれも直接被写体を覗く感じではない。Rolleiで慣れてたというか面白さがわかったから素直にLumixにも入れたのかもしれない。

撮影地は出雲と伊勢。最終的には和綴じの私家版写真集を制作することが当初からの目的。だから展示も本に使う和紙に出力することにした。魂を肉体に鎮めたら、次は写真を図録という形に鎮めなきゃってところ。それからは自分の核になるところも確認できた気がする。

展示方法として、1作品ずつ週交代で2009年2月28日までに15点展示するという変則的な展示方法となります。期間中、スペシャルメニューとして提供。ドイツ・オーストリア直輸入のプレミアムビールや、京都の老舗・柳櫻園の抹茶・ほうじ茶等、作者お勧めの品を特別に提供します。

■ スペシャルメニューのプレミアムビール ■

エーデルワイス スノーフレッシュ

「エーデルワイス」は、ドイツのバイエルンからオーストリアのアルプスにかけての伝統にのっとり、ピュアなアルペンウォーターと、地元の麦芽・ホップで醸造された、とても素晴らしいヴァイスビールに爽やかなアルペンハーブをブレンド。

シェッファーホッファー グレープフルーツ

味わい深く爽やかな「シェッファーホッファービール」と、グレープフルーツジュースを50:50でMIX。アルコール度数2.5%、ヴァイスビール香りと爽やかな味、グレープフルーツの甘酸味がミックスした、まったく新しい飲み物です。

シェッファーホッファー ヘフェヴァイツェン

オーストラリア国際ビール賞(Australian International Beer Award) 2001において、グランドチャンピオンとなった爽やかな香りと酸味、適度な重み、喉を伝わる心地よさ。きっとヴァイスビールの印象が大きく変わることでしょう。

輸入業者：(有) Jena (イエナ)　http://www.jena.co.jp/

■ スペシャルイベント 2009年2月28日 ■

最終日である2月28日には、杉原徹（from. MadWords：ex. てつ100%、エージ＆テツ)に参加してもらってパフォーマンス等を中心とした、クロージングパーティを開催します。

■ 会場案内 ■

fudge (ファッジ)
札幌市中央区南2条西5丁目 興和産業ビル3F
Tel & Fax.　011-210-5011
営業時間　18:30 ～ 23:30（日祝日は休み）
ホームページ　http://www.fudge-miim.com/

高田光男 光画展 in 札幌

鎮魂譚 - tin-con-tan - @ fudge

展示日程と写真解説

11.11-11.17 展示

基本的に影は好きです。モノクロ写真の基本ですし。出雲大社の参道で自分なりの墨絵を玉砂利に描いてみました。

11.18-11.24 展示

出雲大社で一番有名な巨大なしめ縄ですが、光陰のバランス考えて切り取ってみました。

11.25-12.1 展示

松江だかを歩いていたときに道角のミラーに蔦みたいなものが絡まっていい感じにコントラストが出来ていたので、ミラーに空の雲を入れてみました。

12.2-12.8 展示

日御碕の灯台近くの小さな漁港の脇にあった碇と縄。これまたコントラストに見せられて。こういう意図していない偶然のデザインがいい。

12.9-12.15 展示

商店街にある寂れた婦人服屋、いつも不思議に思うのだが商売は成り立っているのだろうか。そんなショーウインドにあったマネキン。時が経ち魂が宿ったかのような朽ち具合と曲線のグラデーションがいい。

12.16-12.22 展示

アスファルトとマンホールの光のシャワー。クリスマスシーズンってことで (笑)

12.23-12.29 展示

これまた漁港の脇にあった船止め用の鎖。質感がいい。

1.5-1.10 展示

金属の光沢感ってのも光と影好きにはたまらない。

1.12-1.17 展示

伊勢神宮内にあるお稲荷さん。伏見と違い白木の鳥居。

1.19-1.24 展示

伊勢神宮のおはらい町通りにあったおそらく古くからある薬の看板。金箔が貼られたなかなか迫力ある看板だった。

1.26-1.31 展示

伊勢神宮内宮の別宮。

2.2-2.7 展示

伊勢神宮の鳥居。こういう自然のステインと白木の光沢感がいい。

2.9-2.14 展示

ブツばかり撮ってきたので、そろそろ人間を撮りたくなってくるが、実は光と影のバランスに魅せられているだけなのかもしれない。

2.16-2.21 展示

ブツばかり撮ってきたので、そろそろ人間を撮りたくなってくるが、実は光と影のバランスに魅せられているだけなのかもしれない。

2.23-2.28 展示

観音開きの鉄門のレールなんだが、やっぱりこの光陰とグラデーションがいいのと、個人的にはナイキのマーク (笑)